

「黒い雨」のこと

以下のチラシは、2013,8.7～8.9 原水爆禁止世界大会の核兵器と原発分科会、受付で配布されたもので、编者である運動家の高東征二さんから、余分を配布する許可を得てあります。

なお、お勧めの本「黒い雨～内部被曝の告発」は、広島県「黒い雨」原爆被害者の会連絡協議会 2012年7月30日発行で定価600円です。

<http://kuroiame.cocolog-nifty.com/blog/2012/07/post-24bc.html>

高東征二さん tel&fax : 082-922-8746 E-mail takatou@ms12.megaegg.ne.jp

あわせて、NHKスペシャル「黒い雨～活かされなかった被爆者調査～」(再放送 14日午前0:50)を是非見てくださるようお願いいたします。

<http://blog.goo.ne.jp/raymiyatake/e/f34b1e6a374ff5dc0134df765e8d8c92>

大豆生田 千恵



『黒い雨』をご購読ください

広島市佐伯区黒い雨の会 高東 征二

1945年8月6日原爆が投下された直後、「黒い雨」が広範囲に降りました。国は「大雨地域」と「小雨地域」とに線引きし、「大雨地域」のみ被爆者援護法の「健康診断特例区域」に指定し、「小雨地域」やその外側は、何の手立てもなく放置しました。その指定地域以外で苦しんでいる住民は、35年前（1978年）から運動を続けています。その運動に押され、広島と県は、3万人を対象にアンケート調査と2千人の面接調査をしました。2010年、政府の指定地域の6倍の「黒い雨の降雨図」を作って「原爆体験等健康意識調査」を報告し、国に黒い雨指定地域の拡大を働きかけました。厚生労働者は、2011年12月に黒い雨の検討会を立ち上げ、9回も検討会を開き、報告書を検証し、2012年7月に結論を出しました。

広島市が報告書で詳細に明らかにした被曝の実態をいっさい認めようとせず、指定地域を拡大して欲しい切実な願いを踏みにじった理不尽なものです。

「大雨地域」以外では、「広島原爆由来の放射線降下物は確認されていない」「内部・外部被ばくがあったことも確認できない」「現に苦しんでいる人は、被曝したのではと思いきりから、被曝していないのに、病を引き起こしていた」と言うのです。さらに「改めて更なる調査を行う意義は低い」とまで言っています。

「大雨地域」の外側の地域で「黒い雨」をあびた多くの住民の証言があるのに、検討会は、「60年以上も経った記憶」だとして、現地にも来ないし被災者にも会わないで住民の記憶違いのように扱っていることには腹立たしさを隠せません。

焼け焦げた紙やチリ、ホコリが落ちてくる中を家に帰った田中貞子さん、芋畑を駆け回って空から落ちてくる焼け焦げの紙を拾った寺本博和さん、川が黒く濁りフナやハヤ、ウナギまで白い腹を上にして流れていた、家に帰ると灰が廊下に積もっていたと証言する岡部宗治さん、一人で庭にいて黒い雨に濡れて白いワンピースが黒くなったと言う小川泰子さん。みんな体が弱く、働き盛りの時に体がだるく働けなかった。でも自分の責任だと思い、周りの者に迷惑をかけないようにひっそりと暮らしてきた。田中隆之さんは、谷川の水を、あの8月6日も7日も毎日生活に使い飲みました。身体じゅうガンに侵され、狂うように先日、亡くなられました。この冊子、「黒い雨—内部被曝の告発」は、爆心地から8km

から 20 kmに住み、国の被曝認定地域から漏れ、被爆者と同じ病気で苦しみ、病
気ばかりの人生を送ってこられた人達、国を告発した証言集です。「私達は何の
悪いことも、嘘もついていません。顔、当時の様子、病歴、どこへ出してくださ
っても結構です」と背中を押され出来ました。

2013年2月17日、日本ジャーナリスト会議広島支部主催で「黒い雨と低線量
被曝」と題して公開シンポジウムがありました。放影研の大久保理事長は、「黒
い雨による残留放射線の被曝は誤差範囲」とか「内部被曝と外部被曝のリスクは
同じ」と言われ、黒い雨や内部被曝の問題をどう考えておられるのか分からな
かった。

「黒い雨の会」として再度話し合いをしました。大久保理事長は、「放影研の
膨大なデータは、すべて爆心地から 2 kmいなくて遠距離被曝や内部被曝につ
いてのデータはありません」と言われた。結局、放影研は、残留放射線の影響を
無視して、無視するほど影響がないので、初期放射線についてのみ調査をしたの
だと取れました。これは大変なことです。放影研の指標が国際放射線防護委員会
(ICRP)の基礎になっているし、先に行われた、「黒い雨の検討会」が「残留放
射線の影響はない」となり「無視できる」とされたのではないかと。

今、福島の子供達達の甲状腺異常が注目されていますが、国の隠ぺい体質、内
部被曝を認めない態度にやりきれない思いが募ります。

多くの方が、体調が悪いのは自分の責任だと無理に思い込み、狂うように亡く
なれました。玄以、被爆者と同じ病で入退院を繰り返しておられる被災者にど
う償われるのか、国の責任を問いたい。